

噴火湾環境調査結果 No.020

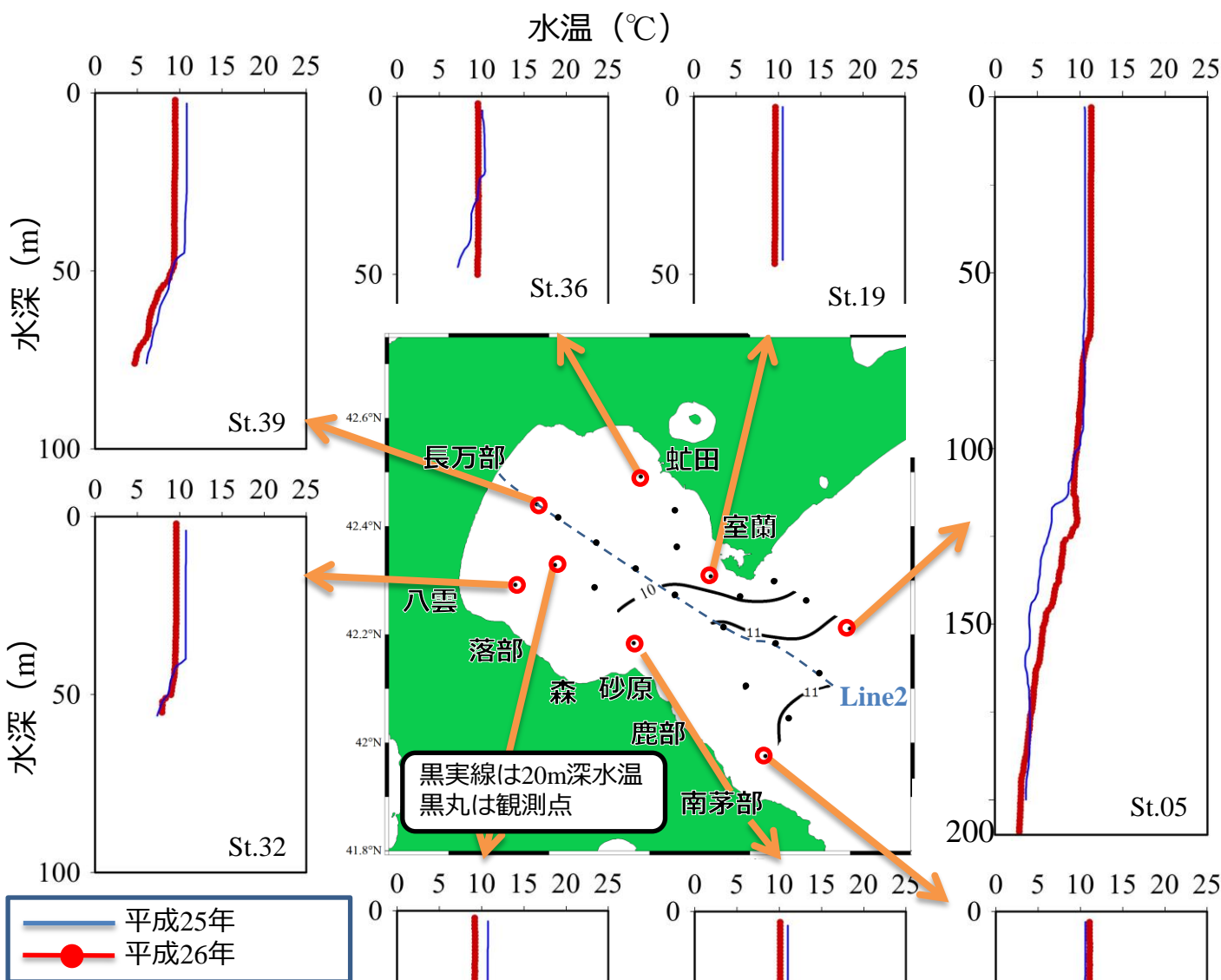
発行：平成26年12月9日

平成26年12月4日～5日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分・溶存酸素濃度の観測結果についてお知らせします。

※今回の観測は時化により調査点を減らしています。

【水温の鉛直分布】

噴火湾周辺の水温は湾内・湾外共に、気温の低下に伴う鉛直混合と強い時化の影響で海面から50mまで、ほぼ一樣な状態です。50m以浅の水温は湾内で9℃前後、湾外で11℃前後で、ほぼ昨年並みとなっています。



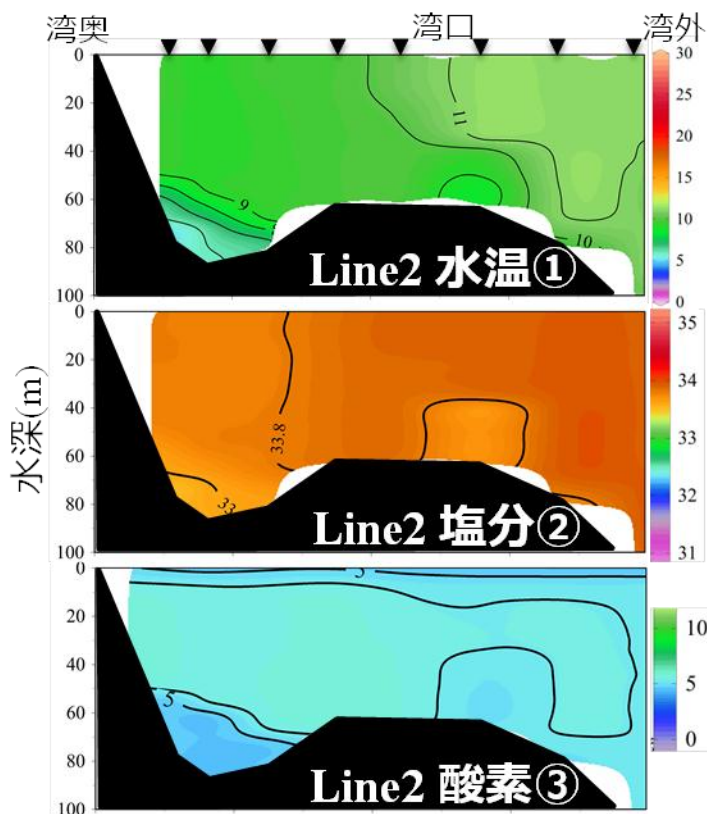
観測期間：

2014/12/4～5

図1, 噴火湾各地先の水温の鉛直分布と20m深における水温の水平分布 単位は°C

連絡先：北海道立総合研究機構 函館水産試験場 調査研究部 管理増殖グループ 佐藤・渡野 豊
函館水産試験場のHPからご覧になれます (<http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/hakodate/index.html>)

No.020: 1/2



【湾奥<=>湾外の水温・塩分・溶存酸素濃度の鉛直断面分布】

湾内の50m以浅は、冬季の冷却と時化のため、水温10℃程度、塩分33.8程度と、ほぼ一様になっています(図2①②)。湾内最深部の60m以深は水温5~9℃の水が分布しています。溶存酸素濃度は湾内最深部の60m以深で4~5mL/L、それ以浅では5~6mL/Lと前回の観測(10月)に比べて大きく増加しており、貧酸素状態は解消されています(図2③)。

図2, 水温・塩分・溶存酸素濃度の鉛直断面図
Lineの位置は図1の水平分布の点線を参照
断面上部の▼は観測点
単位は水温(℃), 溶存酸素濃度(mL/L),
観測期間: 2014/12/4~5

冬季噴火湾固有水

【冬季噴火湾固有水】

現在、噴火湾では海面から50m付近まで水温や塩分が一樣な状態です(図1,2)。今後、さらなる気温の低下に伴い、水温が徐々に低下しながら、最終的には海底まで水温塩分が一樣になります(図3)。この一樣な水は冬季噴火湾固有水とよばれています(参考:環境速報No.011)。

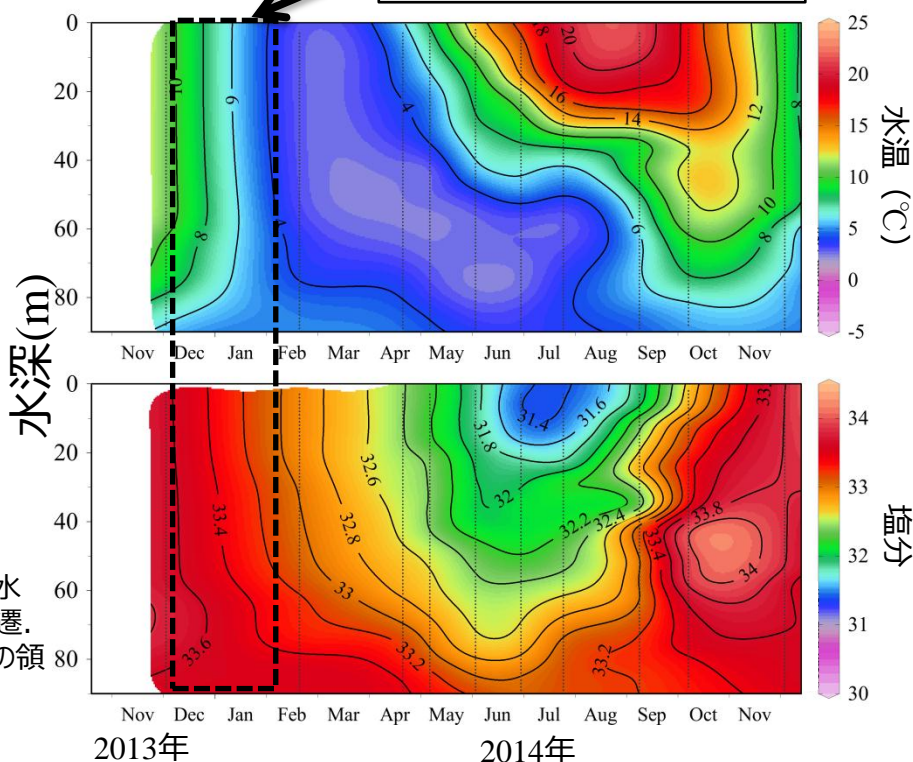


図3, 噴火湾中央部(St.31)における水温(上)と塩分(下)の水温・塩分の変遷。(2013年12月~2014年12月)。点線の領域は昨年の冬季噴火湾固有水を示す。

【今後の見通し】

今年度、冬季の気温は平年通り推移する見込みとなっています(参考:気象庁季節予報 http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/000_1_10.html)。これから冬にかけて冬季噴火湾固有水は平年通り形成されると考えられます。この冬季噴火湾固有水は、親潮が流入してくるまで湾内に分布します。

親潮は例年1~3月に噴火湾に流入してきますが、その流入時期により噴火湾沿岸での最低水温、また春から夏にかけての中層水温が変わる事が知られています。親潮の流入状況については、次回(2月)の釧路水試所属の「北辰丸」による観測時に詳しくお知らせする予定です。